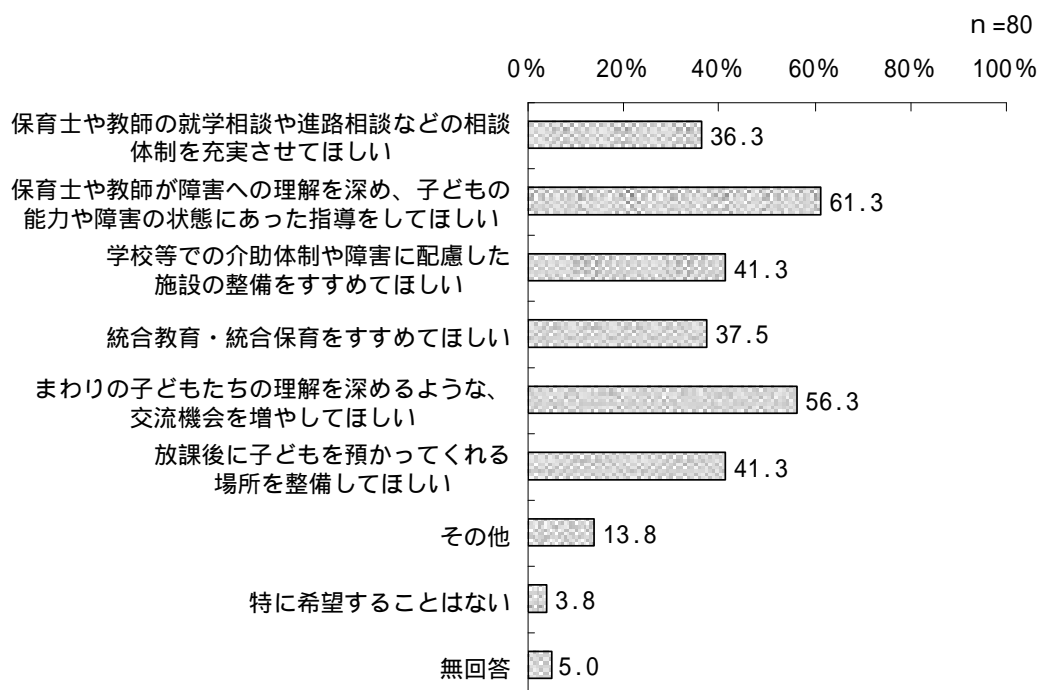


- 5 . 保育や教育について

2.2 . 学校等での生活や指導体制等について望んでいること

問 現在、保育園や幼稚園、学校に通園・通学している方や、その家族にとって、学校等での生活や指導体制等について、どのようなことを望んでいますか。(複数回答)

図表 学校等での生活や指導体制等について望んでいること(身体・知的のみ)



図表 学校等での生活や指導体制等について望んでいること(障害別：上位5目)

	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者 (n=23)	まわりの子どもたちの理解を深めるような、交流機会 60.9%	子どもの能力や障害の状態にあった指導 56.5%	学校等での介助体制や障害に配慮した施設の整備 47.8%	放課後に子どもを預かってくれる場所 39.1%	統合教育 統合保育 34.8%
知的障害者 (n=57)	子どもの能力や障害の状態にあった指導 63.2%	まわりの子どもたちの理解を深めるような、交流機会 54.4%	放課後に子どもを預かってくれる場所 42.1%	保育士や教師の就学相談や進路相談などの相談体制 40.4%	学校等での介助体制や障害に配慮した施設の整備 統合教育・統合保育 38.6%

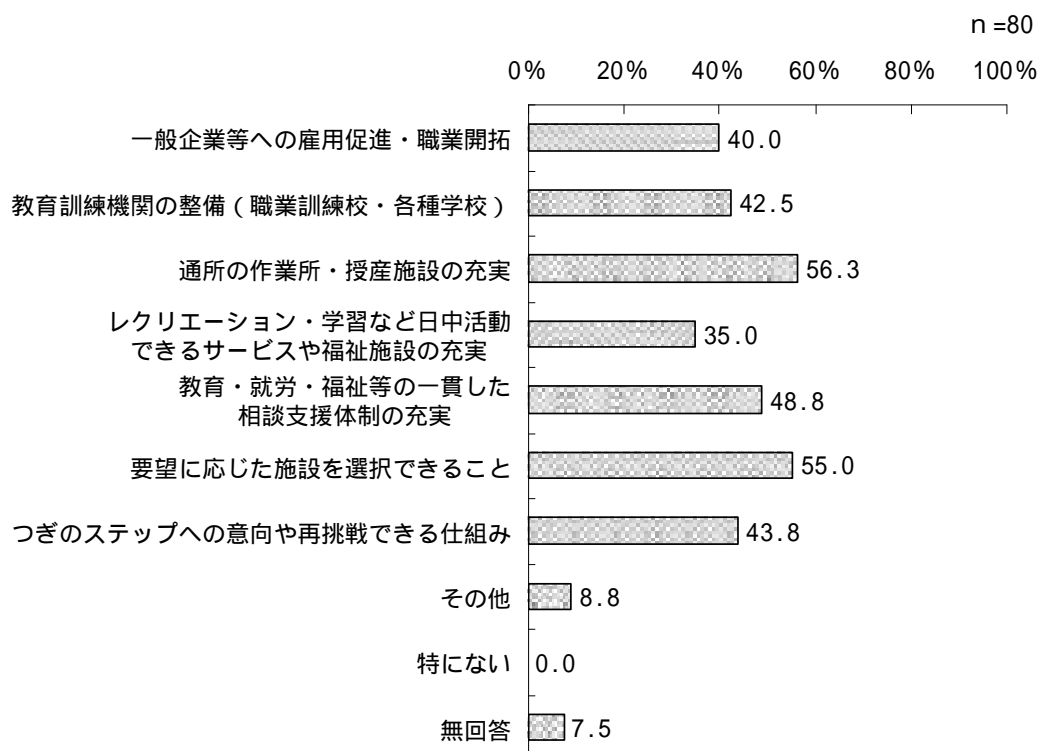
現在学校等に通っている方(n=80)のなかで、学校等での指導体制について望むこととしては、「保育士や教師が障害への理解を深め、子どもの能力や障害の状態にあった指導」(61.3%)が最も多くの割合を占め、「まわりの子どもたちの理解を深めるような、交流機会」(56.3%)、「学校等での介助体制や障害に配慮した施設の整備」、「放課後に子どもを預かってくれる場所」(それぞれ41.3%)がこれに続く結果となっています。

障害別にみると、身体障害のある回答では「まわりの子どもたちの理解を深めるような、交流機会」(60.9%)、知的障害のある回答者では「保育士や教師が障害への理解を深め、子どもの能力や障害の状態にあった指導」(63.2%)が、それぞれ最上位に挙げられています。

2.3. 学校教育終了後の進路について必要な対策

問 学校教育終了後の進路について、どのような対策が必要ですか。(複数回答)

図表 学校教育終了後の進路について必要な対策(全体)



図表 学校教育終了後の進路について必要な対策(障害別:上位5目)

	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者 (n=23)	・一般企業等への雇用促進職業開拓 ・通所の作業所・授産施設の充実 ・要望に応じた施設を選択できること			・教育・就労・福祉等の一貫した 相談支援体制の充実 ・つぎのステップへの意向や再挑戦 できる仕組み	
	43.5%			34.8%	
知的障害者 (n=57)	通所の作業所・ 授産施設の 充実	要望に応じた 施設を選択 できること	教育・就労・福祉 等の一貫した相談 支援体制の充実	・教育訓練機関の整備 (職業訓練校・各種学校) ・つぎのステップへの意向や再挑 戦できる仕組み	
	61.4%	59.6%	54.4%	47.4%	

現在学校等に通っている方(n=80)の学校教育終了後の進路について必要な対策として、「通所の作業所・授産施設の充実」(56.3%)、「要望に応じた施設を選択できること」(55.0%)、「教育・就労・福祉等の一貫した相談支援体制の充実」(43.8%)についての意向が上位に挙がっています。

また障害別では、身体障害のある回答者で「一般企業等への雇用促進職業開拓」(43.5%)が上位に挙がっています。

- 6 . 仕事・作業・訓練について

2.4 . 仕事や作業、訓練の平均日数・時間

問 現在、仕事や作業、訓練をしている方は、平均どのくらいの日数、時間していますか。

図表 仕事や作業、訓練の平均日数・時間（全体・障害別）

項目	平均日数・時間	比較（対全体）
仕事や作業、訓練の平均日数（全体）	4.49 日/週	-
身体障害者	4.50 日/週	+0.01 日/週
知的障害者	4.60 日/週	+0.11 日/週
精神障害者	3.67 日/週	-0.82 日/週
仕事や作業、訓練の平均時間（全体）	6.66 時間/日	-
身体障害者	6.66 時間/日	0 時間/日
知的障害者	6.85 時間/日	+0.19 時間/日
精神障害者	5.52 時間/日	-1.14 時間/日

仕事や作業、訓練の平均時間は、通う時間も含まれます。

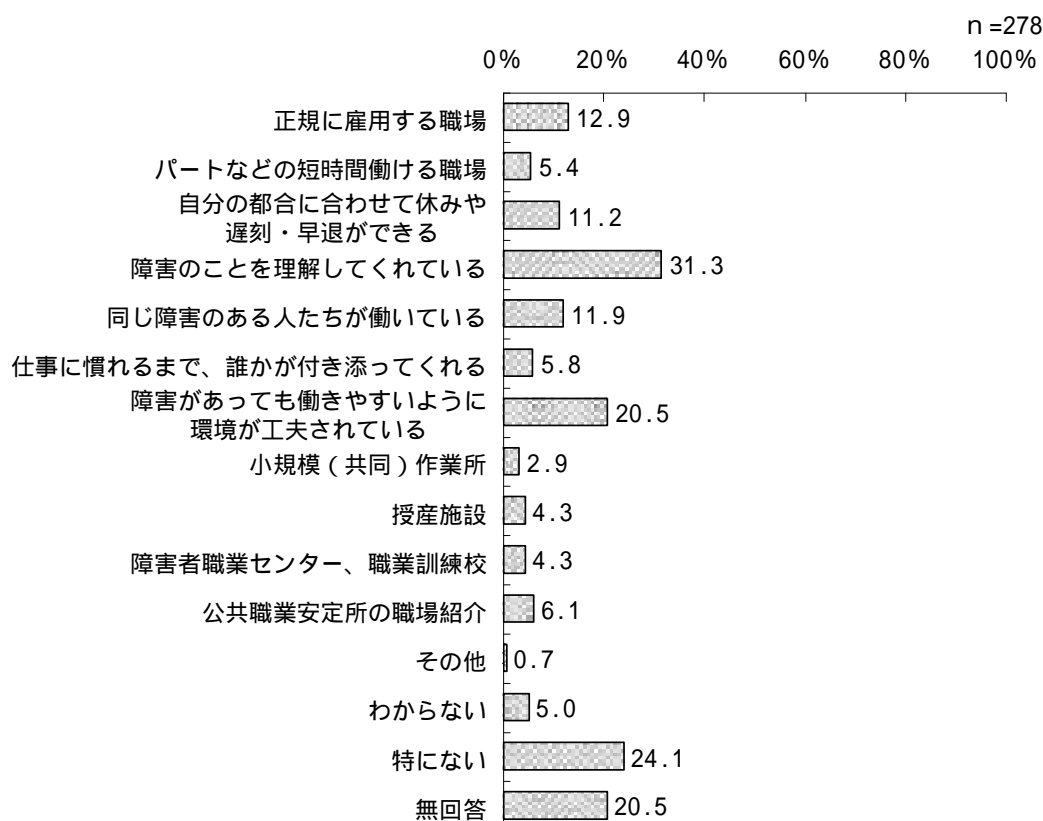
3 障害全体で見ると、現在働いている方の仕事や作業、訓練の日数は、4～5 日/週、1 日の平均時間は、通う時間も含めて 5～7 時間/日とみられます。

また障害別では、精神障害のある回答者の働ける日数や時間は、身体・知的障害のある回答者と比較して、やや短い傾向がみられます。

2.5 . 仕事や作業、訓練を続けていくために望むこと

問 あなたが仕事や作業、訓練を続けていくために、特に望むことはありますか。（複数回答）

図表 仕事や作業、訓練を続けていくために望むこと（全体）



. 調査結果

図表 仕事や作業、訓練を続けていくために望むこと（障害別：上位3目）

	1位	2位	3位
身体障害者 (n=212)	障害のことを理解してくれている	障害があっても働きやすいように環境が工夫されている	正気に雇用する職場
	28.3%	17.9%	14.2%
知的障害者 (n=60)	障害のことを理解してくれている	同じ障害のある人たちが働いている	障害があっても働きやすいように環境が工夫されている
	38.3%	35.0%	26.7%
精神障害者 (n=6)	病気のことを理解してくれている	・障害があっても働きやすいように環境が工夫されている ・授産施設	
	66.7%	50.0%	

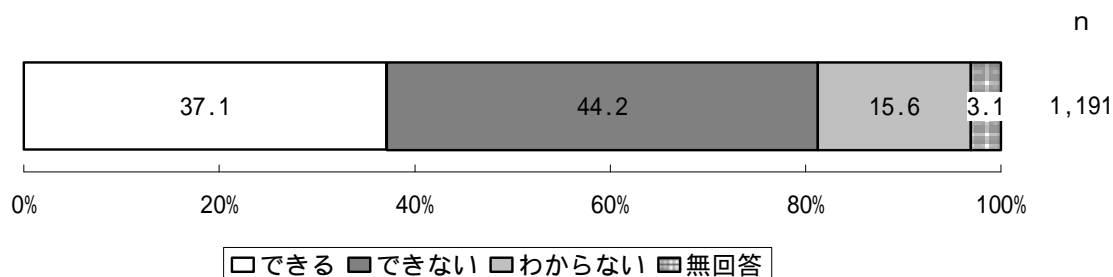
現在働いている方（n=278）が仕事や作業、訓練を続けていくために望むこととして、「障害のことを理解してくれている」（31.3%）が最も高く、障害別においても、それぞれ最上位に挙げられています。

- 7 . 災害や緊急時のことについて

26 . 災害時の避難について

問 災害時に、あなたは一人で避難できますか。

図表 災害時の避難について（全体）

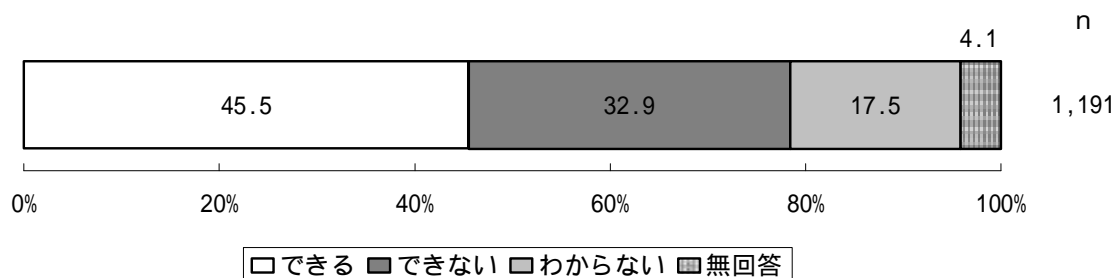


3 障害全体で避難「できる」と回答した方は 37.1%、「できない」と回答した方は 44.2% であり、避難について一人では「できない」と回答した割合が 7.1 ポイント上回っています。

27 . 災害等の非常時に、周囲の人へ知らせることができるか

問 災害等の非常時に、周囲の人へ知らせること(機器等による通知を含む)ができますか。

図表 災害等の非常時に、周囲の人へ知らせることができるか（全体）

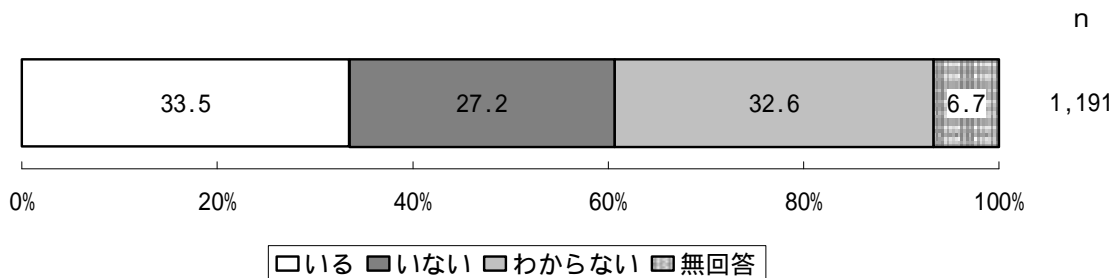


3 障害全体の回答者の 5 割 (45.5%) の回答者は、周囲の人へ知らせることが「できる」と回答しています。また「できない」回答した割合は 3 割 (32.9%) となっています。

2.8. 家族の不在時やひとり暮らしの場合、助けてくれる人はいるか

問 家族が不在の場合やひとり暮らしの場合、近所であなたを助けてくれる人はいますか。

図表 家族の不在時やひとり暮らしの場合、助けてくれる人はいるか（全体）

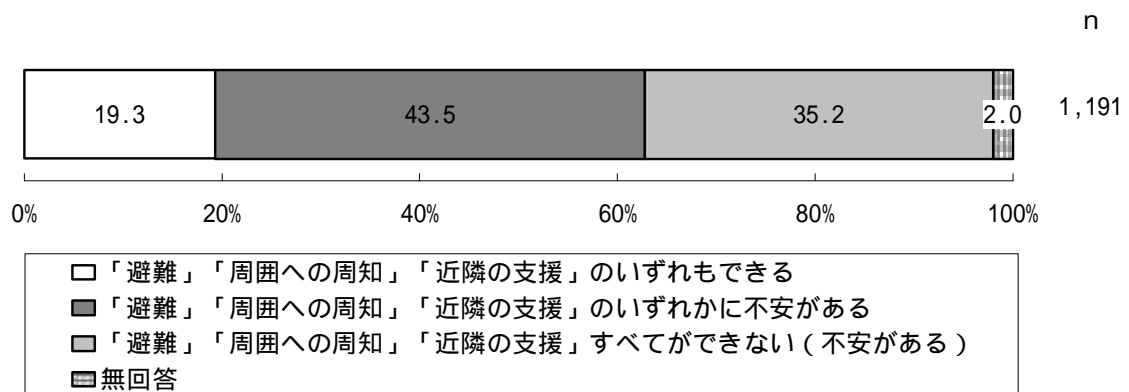


3 障害全体で、近所で助けてくれる人が「いる」と回答した方は、33.5%、「いない」と回答した方は、27.2%をそれぞれ占めています。

また「わからない」と回答した割合は、回答者の3割（32.6%）となっており、災害や緊急時の行動として、身近な支援者の存在については、判断しにくい（あるいはできない）ことであるようです。

（参考：災害及び緊急時の行動について）

図表 参考：災害及び緊急時の行動（全体）



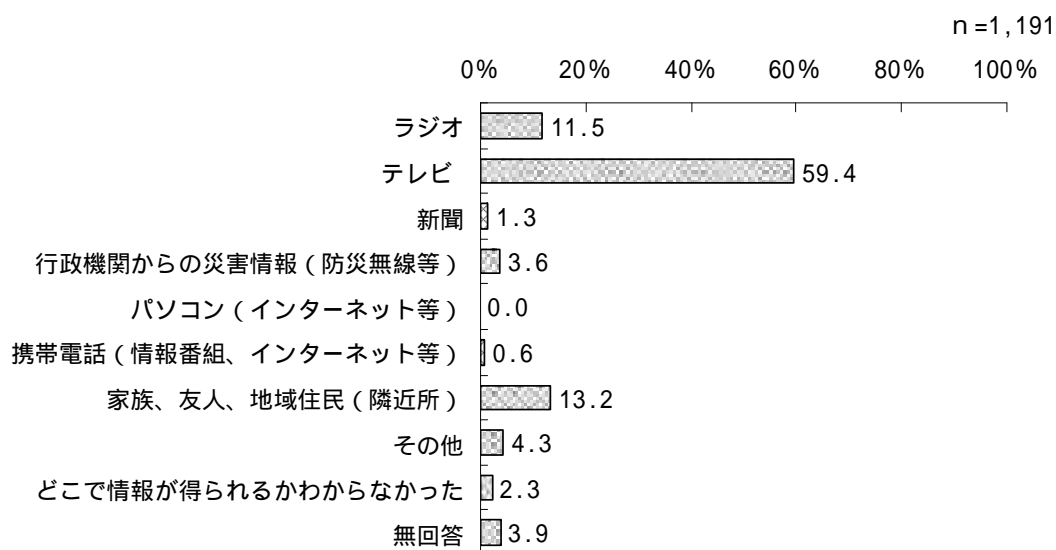
災害及び緊急時の行動として、前設問までの「避難」「周囲への周知」「近隣の支援」について、「避難」「周囲への周知」「近隣の支援」のいずれも「できる」と回答した方は2割（19.3%）、いずれかに「不安がある」と回答した方は4割（43.5%）、すべてが「できない（不安がある）」と回答した方も4割（35.2%）となりました。

全体として、8割（78.7%）の方は、災害及び緊急時の行動に対して、何らかの「支援」が必要であることがうかがえます。

2.9. 災害情報の入手先

問 昨年8月16日の宮城地震が発生したとき、災害情報をおもに何から知りましたか。

図表 災害情報の入手先（全体）



昨年の宮城地震の際に、災害情報を知るおもな入手先となったのは、「テレビ」が最も多く、回答の6割(59.4%)を占めています。これに次いで「家族、友人、地域住民(隣近所)」(13.2%)、「ラジオ」(11.5%)が上位を占め、緊急時の情報入手手段となっています。

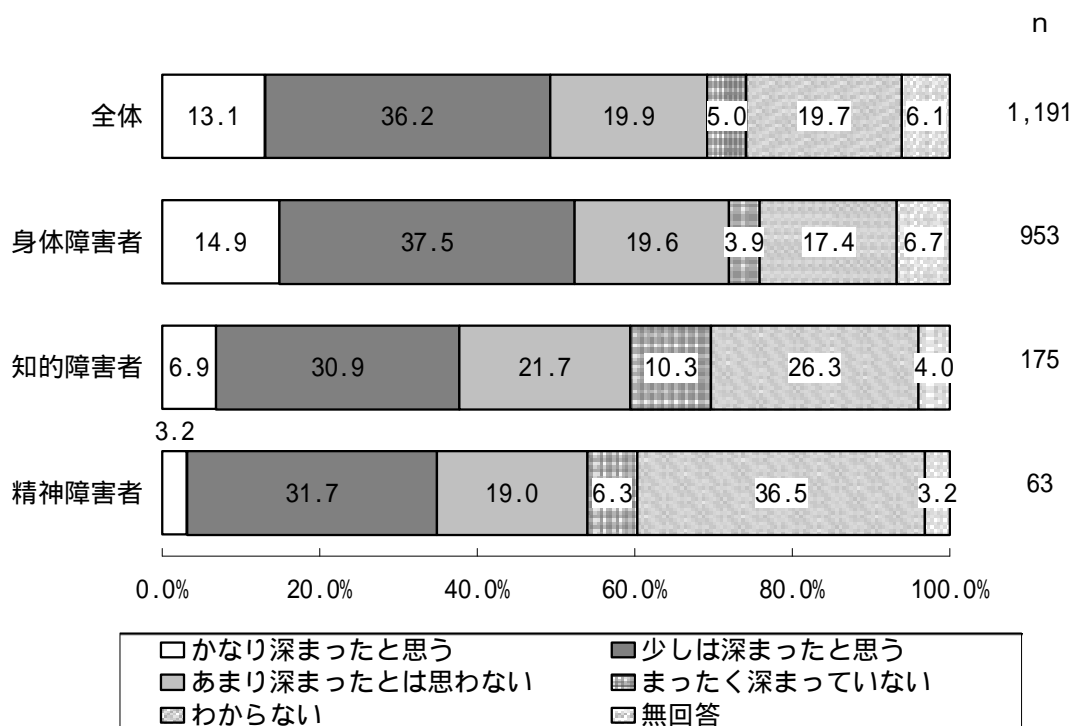
また「どこで情報を得られるかわからなかった」と回答した割合は、回答者の2.3%を占めています。

- 8 . これからのまちづくりについて

30 . 社会全体の障害のある人への理解について

問 あなたは、社会全体で、障害のある人への理解が以前より深まったと感じていますか。

図表 社会全体の障害のある人への理解について（全体×障害別）



3 障害全体で見ると「かなり深まったと思う」(13.1%)、「少しは深まったと思う」(36.2%)を合わせた5割(49.3%)は、障害のある人への理解が以前より深まったと感じています。

一方で、「あまり深まったとは思わない」(19.9%)、「全く深まってはいない」(5.0%)を合わせた2割(24.9%)は、障害のある人への理解の深まりを感じていない様子です。

障害別では、身体障害のある回答者の障害のある人への理解が「以前より深まった」と感じている意向が最も高く回答者の半数以上(52.4%)を占めています。

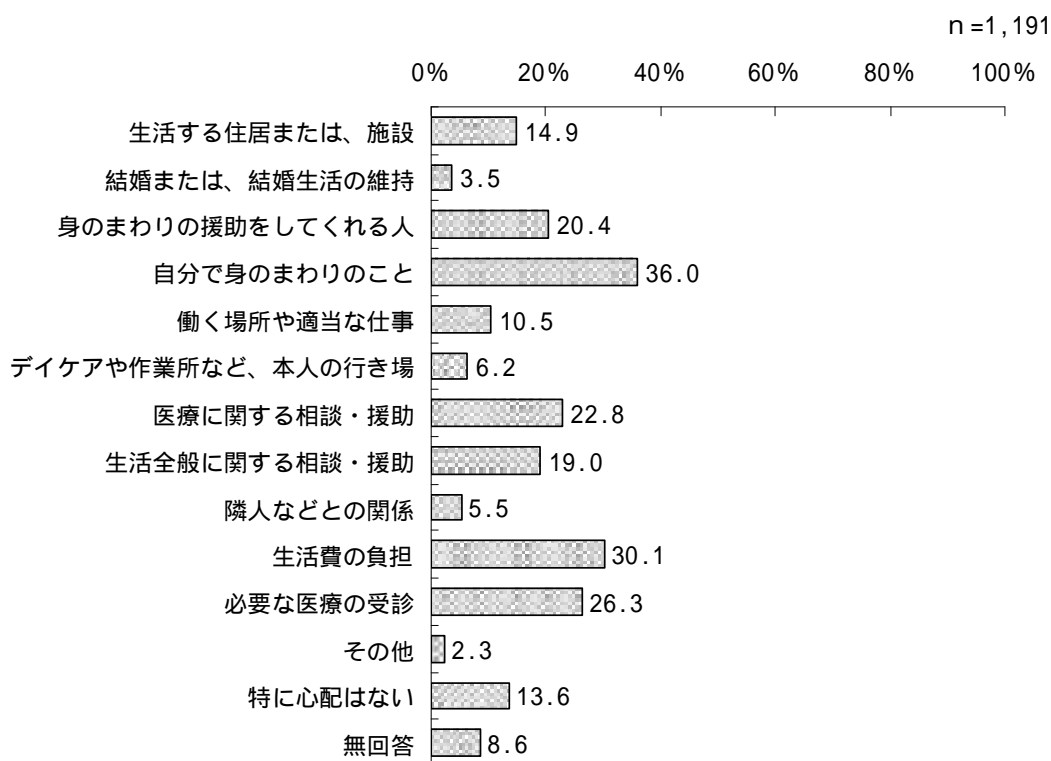
また知的障害のある回答者では4割(37.8%)、精神障害のある回答者では3割(34.9%)が「以前より深まった」と感じていることから、障害によって障害のある人への理解の深まりへの感じ方は異なるようです。

なお、障害のある人への理解の深まりについては、最も「深まり」の低い、精神障害のある回答者の4割(36.5%)が「わからない」と回答していることから、障害のある人への理解を感じられる機会となる「地域との関わり」も少ないことがうかがえます。

3.1. 将来、不安に思うこと

問 あなたの将来を考えたとき、特に不安に思うことがありますか。(複数回答)

図表 将来、不安に思うこと(全体)



図表 将来、不安に思うこと(障害別：上位5目)

	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者 (n=953)	自分で身のまわりのことができるかどうか 37.5%	生活費の負担ができるかどうか 29.2%	必要な医療が受けられるかどうか 28.3%	医療に関する相談・援助が受けられるかどうか 24.4%	身のまわりの援助をしてくれる人がいるかどうか 17.7%
知的障害者 (n=175)	生活する住居または、施設 34.9%	生活費の負担 30.9%	身のまわりの援助をしてくれる人 働く場所や適当な仕事 30.3%	医療に関する相談・援助 29.1%	生活全般に関する相談・援助 29.1%
精神障害者 (n=63)	生活費の負担 42.9%	自分で身のまわりのことができるかどうか 34.9%	身のまわりの援助をしてくれる人がいるかどうか 33.3%	必要な医療が受けられるかどうか 27.0%	生活する住居または、施設 働く場所や適当な仕事 19.0%

3 障害全体では、「自分で身のまわりのことができるかどうか」(36.0%)、「生活費の負担ができるかどうか」(30.1%)、「必要な医療が受けられるかどうか」(26.3%)が、上位に挙がっています。

また 3 障害に共通する将来の不安として「経済的負担(生活費の負担ができるかどうか)」が、いずれも上位に挙げられています。

〔参考：現在の不安と将来の不安の比較〕

図表 現在の不安と将来の不安（障害別：上位5目）

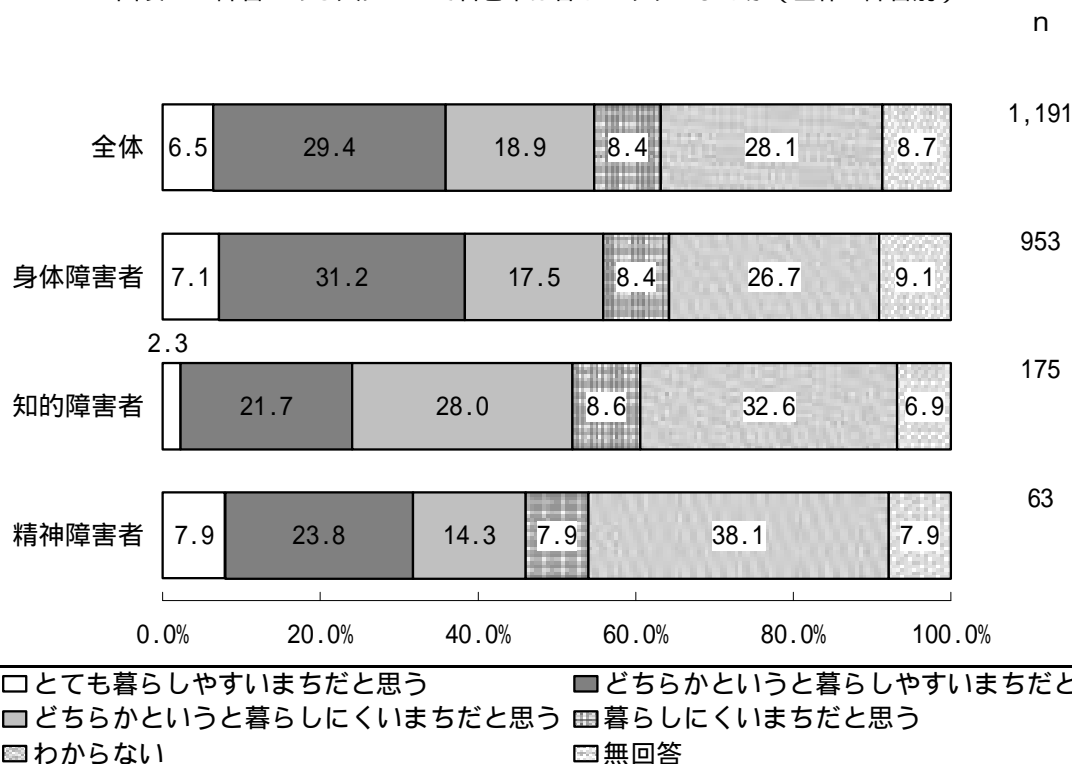
		1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者	現在の 困りごと (n=953)	自分の健康や体力に自信がない	家族など介助者の健康状態が不安	十分な収入が得られない	将来にわたる生活の場(住居)、または施設	適当な働き口がない
		27.9%	11.2%	8.1%	4.5%	3.4%
	将来の不安 (n=953)	自分で身のまわりのことができるかどうか	生活費の負担ができるかどうか	必要な医療が受けられるかどうか	医療に関する相談・援助が受けられるかどうか	身のまわりの援助をしてくれる人がいるかどうか
		37.5%	29.2%	28.3%	24.4%	17.7%
知的障害者	現在の 困りごと (n=175)	将来にわたる生活の場(住居)、または施設	自分の健康や体力に自信がない	家族など介助者の健康状態が不安	適当な働き口がない	十分な収入が得られない
		24.6%	12.0%	9.1%	8.6%	5.7%
	将来の不安 (n=175)	生活する住居または、施設	生活費の負担	身のまわりの援助をしてくれる人・働く場所や適当な仕事		生活全般に関する相談・援助
		34.9%	30.9%	30.3%		29.1%
精神障害者	現在の 困りごと (n=63)	自分の健康や体力に自信がない	将来にわたる生活の場(住居)、または施設	適当な働き口がない	十分な収入が得られない 趣味や生きがいを持ってない	
		28.6%	12.7%	9.5%	7.9%	
	将来の不安 (n=63)	生活費の負担	自分で身のまわりのことができるかどうか	身のまわりの援助をしてくれる人がいるかどうか	必要な医療が受けられるかどうか	生活する住居または、施設 働く場所や適当な仕事
		42.9%	34.9%	33.3%	27.0%	19.0%

障害別の現在の困りごとと将来の不安を比較すると、3障害ともに、現在困っていることが、将来の不安にもつながっていることがうかがえます。

3.2. 障害のある人にとって石巻市は暮らしやすいまちか

問 障害のある人にとって石巻市は暮らしやすいまちだと思いますか。

図表 障害のある人にとって石巻市は暮らしやすいまちか（全体×障害別）



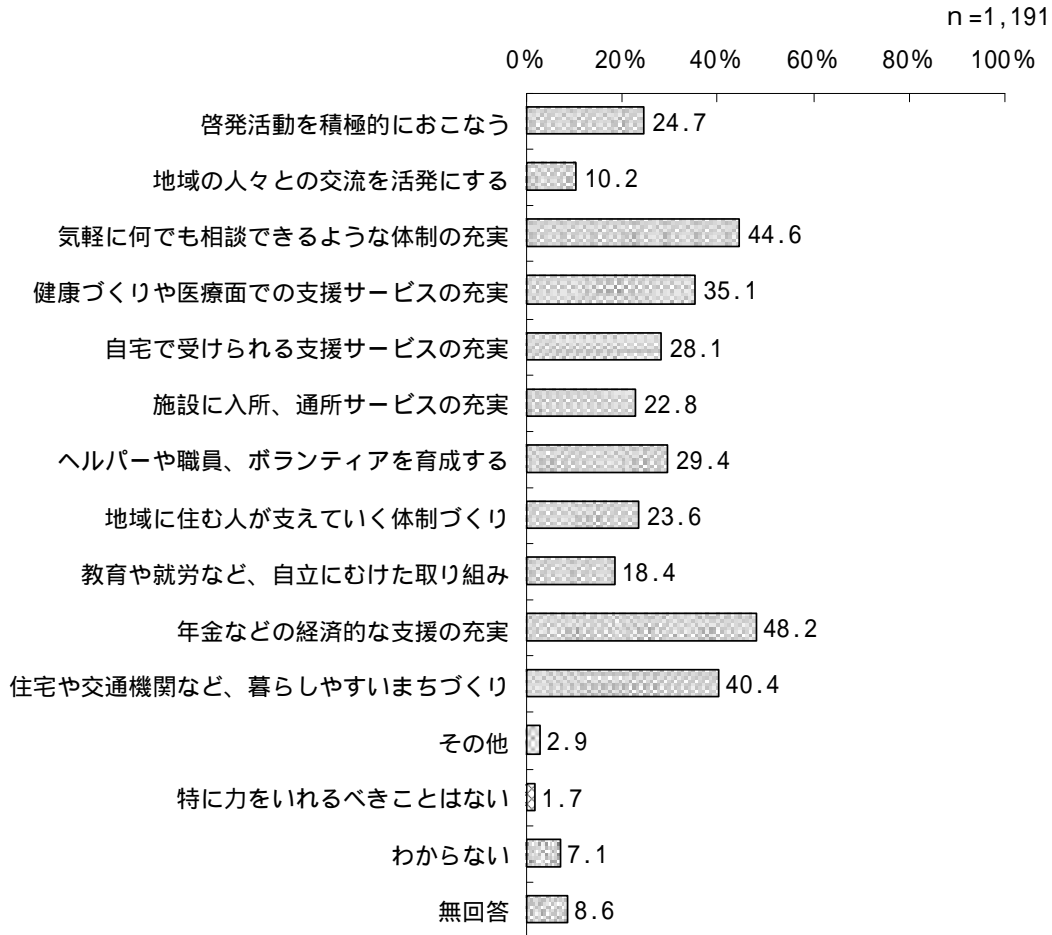
本市の暮らしやすさについて3障害全体では、「とても暮らしやすい」(6.5%)、「どちらかという暮らしやすい」と(29.4%)を合わせた4割(35.9%)は、地域での生活環境について概ね「暮らしやすい」と感じています。一方「どちらかという暮らしにくい」(18.9%)と、「暮らしにくい」(8.4%)をあわせた3割(27.3%)は「暮らしにくさ」を感じているようです。

また、障害別では、身体障害のある回答者で「暮らしやすい」と感じる割合が最も高く、4割(38.3%)を占めています。「暮らしやすい」割合が最も低い回答者は、知的障害のある回答者であり、2割(24.0%)となっています。なお精神障害のある回答者は、3割(31.7%)の方が「暮らしやすい」と感じています。

3.3. 暮らしやすいまちづくりをおこなうために必要なこと

問 障害のある人にとっても暮らしやすいまちづくりをおこなうために、どのようなことが必要だと考えますか。(複数回答)

図表 暮らしやすいまちづくりをおこなうために必要なこと(全体)



図表 暮らしやすいまちづくりをおこなうために必要なこと(障害別：上位5目)

	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害者 (n=953)	年金などの経済的な支援の充実	気軽に何でも相談できるような体制の充実	住宅や交通機関など、暮らしやすいまちづくり	健康づくりや医療面での支援サービスの充実	自宅で受けられる支援サービスの充実
	48.1%	44.3%	41.3%	35.6%	29.3%
知的障害者 (n=175)	気軽に何でも相談できるような体制の充実	年金などの経済的な支援の充実	ヘルパーや職員、ボランティアの育成	教育や就労など、自立にむけた取り組み	住宅や交通機関など、暮らしやすいまちづくり
	49.1%	46.9%	37.7%	37.1%	36.6%
精神障害者 (n=63)	年金などの経済的な支援の充実	健康づくりや医療面での支援サービスの充実	気軽に何でも相談できるような体制の充実 ・住宅や交通機関など、暮らしやすいまちづくり	ヘルパーや職員、ボランティアの育成	
	54.0%	39.7%		36.5%	34.9%

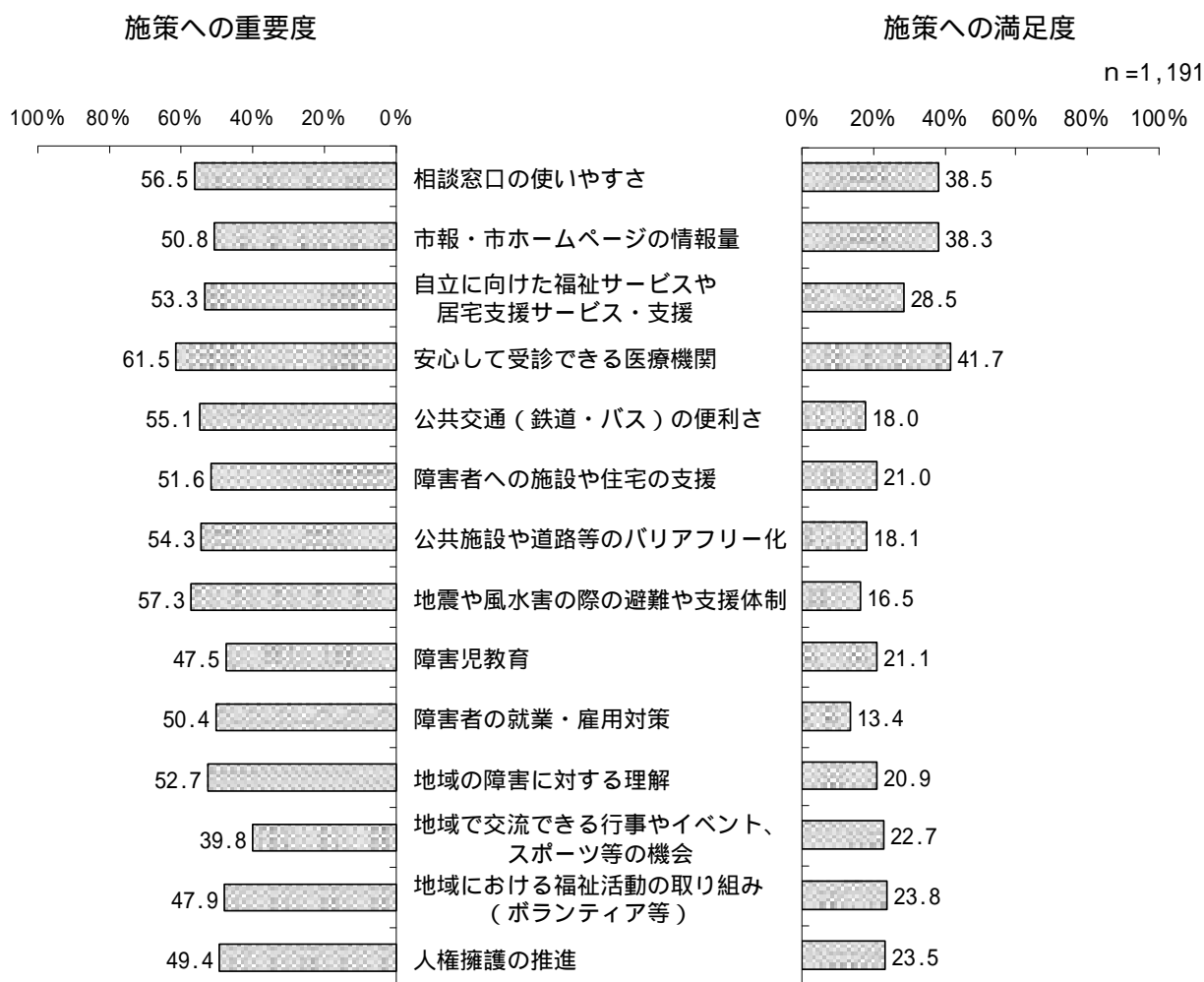
3 障害全体の回答者では「年金などの経済的な支援の充実」(48.2%)、「気軽に何でも相談できるような体制の充実」(44.6%)、「住宅や交通機関など、暮らしやすいまちづくり」(40.4%)、「健康づくりや医療面での支援サービスの充実」(35.1%)、「ヘルパーや職員、ボランティアの育成」(29.4%)を暮らしやすいまちづくりをおこなうために必要なこととして上位を占め、これらの項目は3障害に共通するニーズとみられます。

また障害別みると、「自宅で受けられる支援サービスの充実」は身体障害のある回答者で、特に上位を占めるほか、「教育や就労など、自立にむけた取り組み」は知的障害のある回答者で上位を占めています。

3.4. 市の施策やまちづくりに対する評価について

問 市では障害者へのさまざまな事業をおこなっていますが、市の施策やまちづくりに対する評価（満足度、重要度）について、おたずねします。

図表 市の施策やまちづくりに対する評価について（満足度・重要度）



図表 市の施策やまちづくりに対する評価について（満足度（全体）：上位・下位5項目）

	1位	2位	3位	4位	5位
満足度 上位項目 (n=1,191)	・市報市ホームページの情報量 ・安心して受診できる医療機関		相談窓口の 使いやすさ	自立に向けた 福祉サービスや 居宅支援 サービス・支援	地域における 福祉活動の 取り組み (ボランティア等)
	2.70/4点		2.65	2.47	2.35
満足度 下位項目 (n=1,191)	障害者の 就業・雇用対策	公共交通 (鉄道・バス)の 便利さ	地震や風水害 の際の避難や 支援体制	公共施設や 道路等の バリアフリー化	地域の障害に 対する理解
	1.94/4点	1.97	2.03	2.06	2.18

図表 市の施策やまちづくりに対する評価について（重要度（全体）：上位・下位5項目）

	1位	2位	3位	4位	5位
重要度 上位項目 (n=1,191)	安心して 受診できる 医療機関	地震や風水害 の際の避難や 支援体制	相談窓口の 使いやすさ	自立に向けた 福祉サービスや 居宅支援 サービス・支援	障害者の 就業・雇用対策
	3.81/4点	3.73	3.71	3.67	3.65
重要度 下位項目 (n=1,191)	地域で交流できる 行事やイベント、 スポーツ等の機会	地域における 福祉活動の 取り組み (ボランティア等)	市報 市ホームページ の情報量	地域の障害に 対する理解	人権擁護
	3.05/4点	3.33	3.39	3.55	3.56

「安心して受診できる医療機関」、「相談窓口の使いやすさ」、「自立に向けた福祉サービスや居宅支援サービス・支援」は、満足度・重要度ともに高い傾向となっています。一方で「障害者の就業・雇用対策」、「公共交通（鉄道・バス）の便利さ」、「地震や風水害の際の避難や支援体制」に対する満足度が低くなっています。特に「障害者の就業・雇用対策」、「地震や風水害の際の避難や支援体制」は、重要度の高い施策項目であることから、今後も重点的な施策展開が望まれていることがうかがえます。

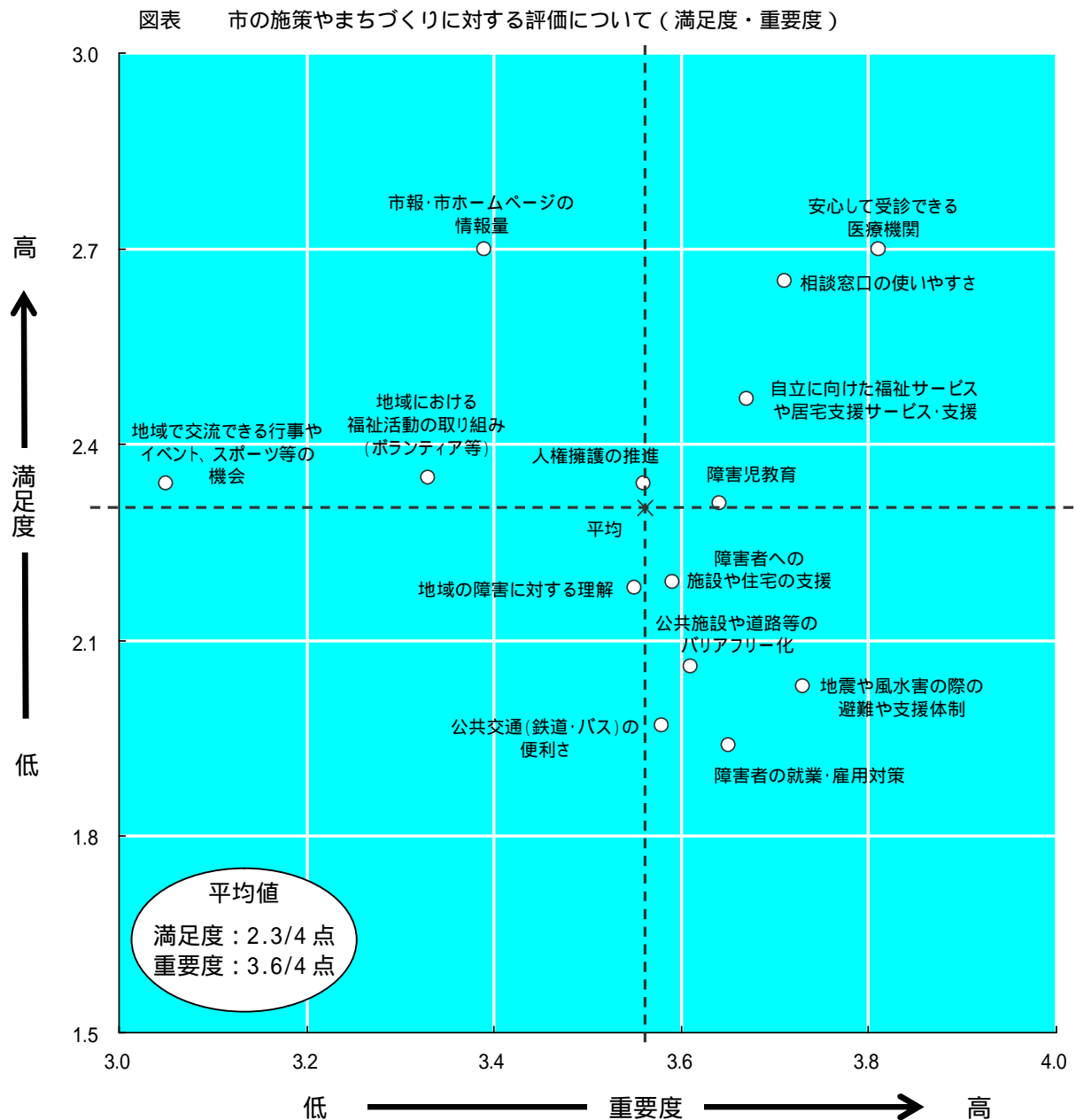
. 參考資料

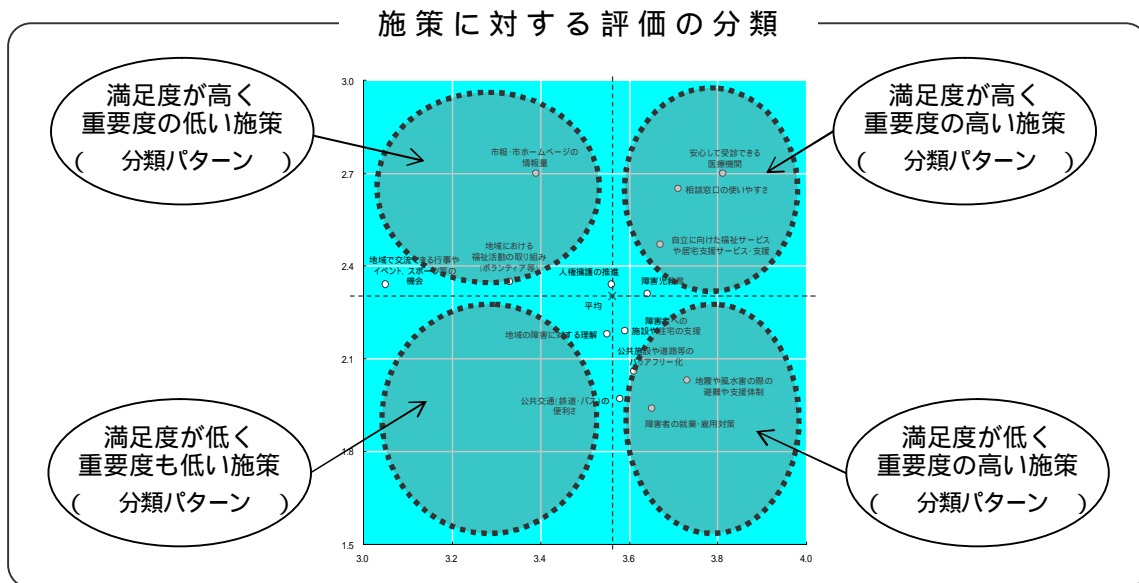
- 1 . 計画策定にむけた考え方

本章では、アンケート調査による結果等を踏まえ、本計画策定にむけた施策の方向性についてとりまとめます。

1. 施策の評価にみられる傾向(分野別施策の検討)

本調査にて行った、障害のある方が市の障害者施策を評価の傾向は、つぎのとおりです。





図表 市の施策やまちづくりに対する評価について (各分類パターンの該当施策と傾向)

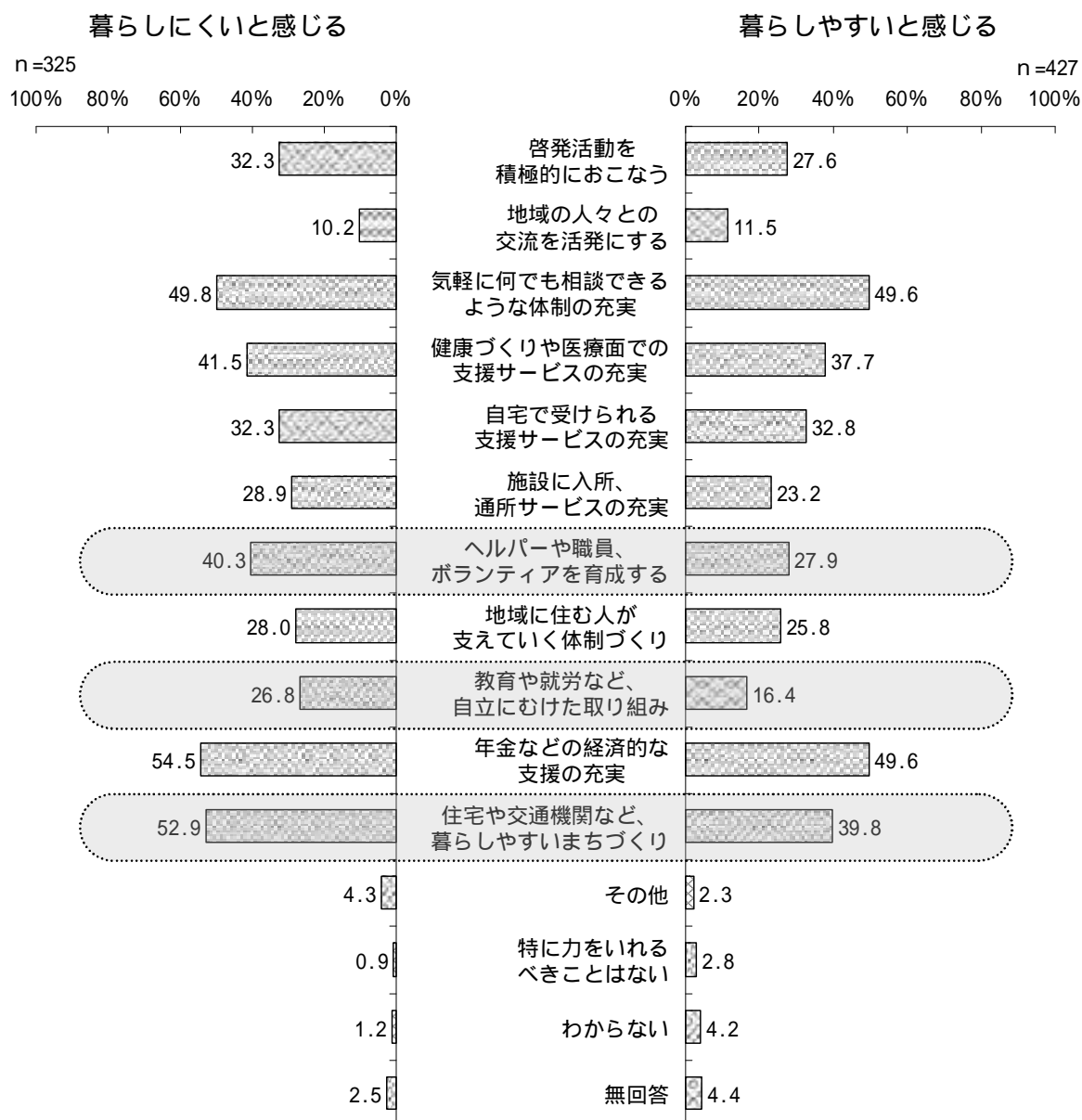
<p>石巻市における 障害者施策について (評価の傾向)</p>	<p>障害施策全体に対する評価としては、満足度の低い施策がやや多く、重要度については、全体的に高くなっています。重要度に関しては、特に障害のある人の暮らしに直接関わる(影響のある)ことへの、重要度が高い傾向がみられます。</p> <p>(参考:障害施策の満足度) 満点を 100 点とした場合、障害のある人にとって、障害施策全体の満足度は 57.5 点となります。</p> <p style="text-align: center;">$2.3(\text{各施策の満足度の平均}) \div (4(\text{満足度の最大値}) \times 100) = \underline{57.5 \text{ 点}}$</p>
--	--

項 目		該 当 施 策	施策についての評価
分類パターン	満足度が高く重要度も高い施策	安心して受診できる医療機関 相談窓口の使いやすさ 自立にむけた福祉サービスや居宅支援サービス・支援 障害児教育	・今後も満足度の維持・向上をめざし、重点的な取り組みが求められる施策が該当しています。
分類パターン	満足度が低く重要度の高い施策	障害者への施設や住宅の支援 公共施設や道路等のバリアフリー化 地震や風水害の差異の避難や支援体制 公共交通(鉄道・バス)の利便さ 障害者の就業・雇用対策	・施策満足度を高めるという視点からみると、4つの分類のなかで、最も重点的に取り組む必要がある施策が該当します。
分類パターン	満足度が高く重要度の低い施策	市報・市ホームページの情報量 人権擁護の推進 地域における福祉活動の取り組み(ボランティア等) 地域で交流できる行事やイベント、スポーツ等の機会	・重点的な取り組みの必要性は、他の施策よりも高くはありませんが、継続に組みよって、満足度の維持・向上を図る必要性がうかがえます。
分類パターン	満足度が低く重要度も低い施策	地域の障害に対する理解	・重点的な取り組みの必要性が他の施策よりも低いものの、施策の不満は高いことから、事業の見直し等を含め、施策展開について検討が必要とみられます。

2. 障害のある人にとっても暮らしやすいまちづくりにむけて(施策および将来像の検討)

調査結果をもとに、本市における「障害のある人にとっても暮らしやすいまちづくり」にむけて、暮らしやすくするため(満足度の向上)に必要な施策・事業および、めざすまちの将来像を検討します。

図表 障害のある人にとって石巻市は暮らしやすいまちか×暮らしやすいまちづくりをおこなうために必要なこと(全体)



○ = 暮らしにくいと感じる回答者と暮らしやすいと感じる回答者との割合の差が10ポイント以上ある項目(暮らしやすいまちにむけて検討が必要な項目)

図表 (参考) 暮らしやすいまちづくりをおこなうために必要なこと(暮らしやすさ別:上位5目)

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=1,191)	年金などの経済的な支援の充実	気軽に何でも相談できるような体制の充実	住宅や交通機関など、暮らしやすいまちづくり	健康づくりや医療面での支援サービスの充実	ヘルパーや職員、ボランティアの育成
	48.2%	44.6%	40.4%	35.1%	29.4%
暮らしやすい (n=427)	・気軽に何でも相談できるような体制の充実 ・年金などの経済的な支援の充実		住宅や交通機関など、暮らしやすいまちづくり	健康づくりや医療面での支援サービスの充実	自宅で受けられる支援サービスの充実
	46.9%		39.8%	37.7%	32.8%
暮らしにくい (n=325)	年金などの経済的な支援の充実	住宅や交通機関など、暮らしやすいまちづくり	気軽に何でも相談できるような体制の充実	健康づくりや医療面での支援サービスの充実	ヘルパーや職員、ボランティアの育成
	54.5%	52.9%	49.8%	41.5%	40.3%

<p>暮らしやすいまちづくりへの方向性</p>	<p>「暮らしやすい」、「暮らしにくい」ともに、「経済支援」、「相談体制」、「住宅や交通機関」、「健康づくり、医療」は、上位を占めており、「暮らしやすい」と回答した方は「自宅で受けられる支援サービス」を、「暮らしにくい」と回答した方は「ヘルパーや職員、ボランティアの育成」を、これらに次いで挙げています。</p> <p>こうした点から、「暮らしやすい」、「暮らしにくい」といった回答の構成比と、暮らしやすいまちづくりへの優先性(「暮らしにくい」と回答した項目の上位を優先度の高い施策・事業として推進を検討する必要性)は特にみられません。</p> <p>しかしながら、「暮らしにくい」と感じる回答者と「暮らしやすい」と感じる回答者の割合の差に着目すると、「住宅や交通機関など、暮らしやすいまちづくり」(13.1ポイント)、「ヘルパーや職員、ボランティアの育成」(12.4ポイント)、「教育や就労など自立に向けた取り組み」(10.4ポイント)は、「暮らしにくい」と感じる割合が「暮らしやすい」を、それぞれ10ポイント以上、上回っており、これらの項目については「暮らしやすい」まちづくりへむけて、取り組みを検討する必要がうかがえます。</p>
-------------------------	--

〔参考:暮らしやすい理由・暮らしにくい理由:(意見分類)〕

暮らしやすい理由・暮らしにくい理由の意見にみられる、特徴をつぎのとおりまとめます。

全体

- ・全体的に生活環境についての意見が多く挙げられているが、特に「暮らしにくい」方では多く意見が挙げられています。
- ・「暮らしやすい」と感じている方では、自然についての意見も多くみられます。

自然

- ・山や海、川といった自然に恵まれており、新鮮な空気と豊富な食に恵まれ、一年を通して気候が穏やかであるといった意見が多く挙がっています。

安心・安全

- ・「暮らしやすい」と感じている方では、比較的災害が少ない地勢に、安心感があるようですが、災害への心配や不安もあるようです。特に「暮らしにくい」と感じている方は、災害への心配や不安の声がうかがえます。
- ・「暮らしにくい」と感じている方では、災害時の避難体制が充実していないといった意見もみられます。

施設等の立地・利便性(生活環境)

- ・「暮らしやすい」と感じている方では、病院や買物等が「近い」「便利」といった“利便性”に対する意見が多くみられます。
- ・「暮らしやすい」「暮らしにくい」と感じている方共通して、医療面の遅れや質についての意見が挙がっています。
- ・「暮らしにくい」と感じている方の施設に関する意見として、「子どもを預ける場所(保育所等)がない」といった意見もみられます。

行政(福祉サービス)(生活環境)

- ・「暮らしにくい」と感じている方では、「税金等金銭的な面について」「情報」「相談体制」「合併前、合併後のサービス」等についての意見が多くみられます。

就労(生活環境)

- ・「就労の場が少ない(ない)」「職種が限られている」といった意見のほかに、「将来(高齢になった時)について」「雇用後の待遇について」といった不安も挙がっています。

道路整備・交通体系・バリアフリー(生活環境)

- ・「暮らしやすい」「暮らしにくい」と感じている方共通して道路整備やバリアフリーに関する意見が多くみられます。
- ・道路整備の課題として、「道路の幅、段差、歩道、信号」といった歩行者と車両の棲み分け、歩行者にやさしい道路を望む意向がうかがえます。
- ・「公共交通の利用の不便さ」といった交通手段に対する不便さは、「暮らしにくい」ことへつながる要因の1つとみられます。

地域交流・障害理解

- ・「暮らしやすい」と感じている方では、人間関係が良好であるといった意見が多く挙げられていることから、地域での暮らしを促すために、地域交流・障害理解が必要であるとみられます。
- ・「無関心」「理解がない」「思いやりがない」等、地域の支えや障害への理解が十分得られない場合に、「暮らしにくい」と感じることもあるようです。